

## 寝ている間に仕事が進む？！

パナマの一般紙へのエッセイ寄稿に関して、「どのようにスペイン語のチェックをしているの？」といった質問が寄せられました。また「あなたのホームページに英語とスペイン語のページもあるけれど、どうやって翻訳とチェックをしているんだい？」といった質問を受けたこともあります。

二つの外国語のページは、いきさつがあって掲載しているものですが、この機会に翻訳とチェックの舞台裏について紹介しておきましょう。

今から3年前にホームページを立ち上げました。すると、知り合いの外国人の友人から、「自分たちも書かれているものを読みたい」との希望が寄せられてきたのです。そこで、それぞれの言語圏の文化にも共通し、興味深く読まれそうなテーマに絞って自分で翻訳を始めました。

とはいえ、翻訳には第三者のチェックが必要です。そしてチェックはネイティブ（その言語を母国語とする人）が理想なのです。私も日本国内に多くの外国人の友人がいますが、それぞれ忙しい立場にあり、チェックを頼むのには気が引けます。プロに頼めば相当額のチェック料金を取られるでしょう。

そうこうしているなか、なんと「記事を読みたい」と言った海外の友人自身が翻訳のチェックを申し出てくれたのです。英語はアメリカに住むKさん、スペイン語はパナマに住むMさんでした。Kさんは横田基地で知り合った元米軍将校、Mさんは私がパナマ特派員だった当時の友人で、元獣医で現在はパナマSGIの機関誌の編集に携わっています。二人の申し出に心から感謝しているところですが、これをもう一步広げて考えていくと、アメリカでもパナマでも、そこに住んでいる人はいわば誰もが、つまり100パーセント近くがネイティブであるというわけです。

こうして、翻訳した原稿をその日の夜、メールに添付して送っておくと、時差の関係で向こうは昼間、早いときには翌朝には私のパソコンにチェックされた原稿が戻っています。こちらが寝ている間に仕事は進んでいるのです。



30年前、私が特派員としてパナマに赴任したころは、メールはおろかファクスさえもありませんでした。日本語もローマ字を打ちながらのテレックスによる通信でした。すごい時代に入ったものですね。この「旅たび東洋」への寄稿も、インターネットの利便さがあってこそなのです。

ちなみに「寝ている間に仕事は進む？！」との英訳原稿をチェックしてくれたアメリカ人のKさんは、翻訳のみならず素晴らしいタイトル案さえも添えてくれたのです。“Magic Pillow”——“魔法の枕”。なんと素晴らしい夢の広がるタイトルでしょうか！！

